

| | | | | | |
|---|---|--------------------------------|------------------------|-----------|------|
| 日本工学院専門学校 | 開講年度 | 2020年度 | 科目名 | 基礎デザイン実習C | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 開設学科 | インテリアデザイン科 | コース名 | 全コース | 開設期 | 前期 |
| 対象年次 | 1年次 | 科目区分 | 必修 | 時間数 | 60時間 |
| 単位数 | 2単位 | | | 授業形態 | 実習 |
| 教科書/教材 | 参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。 | | | | |
| 担当教員情報 | | | | | |
| 担当教員 | 大迫絵里 | 実務経験の有無・職種 | 有・インテリアコーディネーター | | |
| 学習目的 | | | | | |
| スケッチとパース図の作図（描き方・着彩）色彩計画（カラースキム）など、複数の課題を通して表現技法を身につけ、段階的に到達レベルを上げる。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 形態、素材、色彩、構造について学び、平面構成力を身につける。インテリアデザイン・コーディネートをする上での、素材、色彩の知識をつけ、使う人、用途、場所に合わせて計画ができるようになる | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 授業概要 | インテリアの空間ごと、シーンに応じてスケッチやパース図を描くトレーニングを重ねる。 色鉛筆、マーカーによっての着彩の仕方を身につけ、素材感や光までも表現できるようにする。 | | | | |
| 注意点 | 授業時間内で、作図の仕方や着彩方法を学び、毎授業ごとに課題を仕上げる。道具の扱い・管理には注意を払うこと。 欠席等により課題が出せなかった場合は、翌週までに仕上げ、提出すること。 全ての課題を提出しなければ、合格とならない。また授業時数の4分3以上出席しない者は合格することができない。 | | | | |
| 評価方法 | 種別 | 割合 | 備 考 | | |
| | プレゼン | 20% | 制作物の発表方法、内容について評価する | | |
| | 課題完成度 | 40% | 提出課題完成度を総合的に評価する | | |
| | リサーチ | 20% | 制作準備と過程を評価する | | |
| | 平常点 | 20% | 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | |
| 授業計画（1回～15回） | | | | | |
| 回 | 授業内容 | 各回の到達目標 | | | |
| 1回 | 着彩トレーニング ① | 色鉛筆の使い方を身につける | | | |
| 2回 | 着彩トレーニング ② | マーカーの使い方を身につける | | | |
| 3回 | 着彩トレーニング ③ | インテリア家具の着彩ができるようになる | | | |
| 4回 | 着彩トレーニング ④ | インテリア小物の着彩ができるようになる | | | |
| 5回 | 着彩トレーニング ⑤ | 素材の風合いを出す着彩ができるようになる | | | |
| 6回 | 着彩トレーニング ⑥ | 樹木の着彩ができるようになる | | | |
| 7回 | 着彩トレーニング ⑦ | スケッチパースの着彩① 室内・シーンの表現ができるようになる | | | |
| 8回 | 着彩トレーニング ⑧ | スケッチパースの着彩② 室内・シーンの表現ができるようになる | | | |
| 9回 | 着彩トレーニング ⑨ | スケッチパースの着彩③ 室内・シーンの表現ができるようになる | | | |
| 10回 | 表現技法（パース）トレーニング① | 室内パースの書き方を理解する | | | |
| 11回 | 表現技法（パース）トレーニング② | 室内パースを描く | | | |
| 12回 | 表現技法（パース）トレーニング③ | 室内パースを描く | | | |
| 13回 | 表現技法（パース）トレーニング④ | 室内パースに着彩をする | | | |
| 14回 | 応用とまとめ | 【応用】インテリアスタイルの表現 | | | |
| 15回 | 応用とまとめ | 【応用】インテリアスタイルの表現 | | | |